

交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2013年 3月 1日

No.12

13春闘 第3回交渉報告!

中央本部は、本日10時から「第3回賃上げ交渉」を行い、要求の根拠について明らかにしました。
中央本部の今春闘に対する要求の根拠は以下の5点です。

- ①円安による原油価格の高騰に伴い、各種料金等の値上げや保険料率の見直しが行われ組合員の生活は圧迫されている。可処分所得も減少しておりベアは当然の要求である。
- ②策定中の平成25年度事業計画は経常利益を黒字として計画しており、25年3月ダイヤ改正の収入効果は23億円を見込んでいる。ダイヤ改正を担うのは職場で働く組合員であり、ベースアップを行うのは当然の責務である。
- ③J R 貨物が今後も社会的使命を果たすために働く組合員の質的向上を図る具体的な投資としてベースアップ・職場環境改善を実施すべきである。また、嘱託社員、契約・臨時社員に対しても賃金改善の姿勢を示すべきである。
- ④荷主からは鉄道貨物輸送の輸送品質が危惧されている。その中で組合員は安全安定輸送の確保に向けて、超過勤務や休日出勤の対応をしている。この苦労に報いるためにB単価の増額について誠意ある対応を示すべきである。
- ⑤発足25年を迎え、今後もJ R 貨物が鉄道貨物輸送を担うべきであり、次の25年の発展に向けて経営陣は不退転の決意で臨むべきである。J R 貨物労組も責任組合として全組合員でJ R 貨物発展の為に汗を流す覚悟はある。その組合員に対し要求の満額回答をもってその労苦に報いるべきである。

これを受けて会社は現段階の考え方について以下のように示しました。

- ①各種料金の値上げや保険料見直しなど、おかれている現状については指摘の通りである。
- ②来年度は黒字を確保する事業計画であるが、経費増の部分もある。ダイヤ改正の効果を発揮するためには社員の頑張りが必要不可欠であるが、黒字=ベースアップとはならない。ベースアップは将来的に会社負担となるものであり、慎重に判断せざるを得ない。
- ③将来この会社をどうするか展望はあるが、国内総物流量の減少などの現実もあり、今後は鉄道事業部門の収益が悪化するとみており、判断は慎重になる。
- ④輸送品質の向上に向けダイヤ調整のスキームを関係各所に指導するなど会社として努力している。社員の努力により輸送障害が最小限に抑えられていることは認識している。B単価については別途議論したい。

会社の考え方に対して中央本部は7点について指摘し、ベア満額回答の実施を迫りました。

- ①来年度、経常黒字達成を計画しており、ベアを支払えない根拠は無い。
- ②計画未達は経営陣の問題であり、計画未達の責任を社員に押し付けることは認められない。経営陣の姿勢を示すべきである。
- ③鉄道事業部門の収支悪化を理由としているが、総物流量の減少は物流業界全ての問題であり、J R 貨物だけの問題ではない。収入拡大の手段を明らかにし具体的に実行すべきである。
- ④定時運行率が90%を切り、輸送障害の対応は担当者間で出来る限度を超えていることは明らかである。経営陣が旅客各社に日常的に詰めて対応するなど社員や荷主に見える対策を講じるべきである。
- ⑤嘱託社員や臨時・契約社員は高い技術力を持って、低い賃金の中で社員同様の責任をもっている。代えがたい技術力を持った組合員に対して報いるべきである。
- ⑥年末手当妥結時に確認した経営陣のスリム化や各職種の要員査定について約束は守ること。
- ⑦春闘申し入れの際、人件費に踏み込む趣旨の発言がされたが、組合として断じて認めることは出来ない。

最後に中央本部は、社員に責任を押し付けるベアの抑制や人件費に手を付けることは絶対に認められない。ことを通告し交渉を終えました。

組合員のみなさん! 会社は収入拡大でなく経費削減を進めています。13春闘はこれから闘争ゾーンに入ります。ベア獲得に向けて全ての組合員を結集し、闘いをつくり出そうではありませんか。中央本部も先頭で奮闘していく事を申し上げ第3回交渉報告とします。

次回、第4回交渉は3月7日(木)です。